明治二十二年二月廿八日印刷
明治二十二年三月二日出版

婦人衛生會雜誌

第六號

（無定價）

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌

第六號

目次

婦人衛生一班（姙娠の養生）　櫻井郁次郎君

乳母を雇ふべき場合及雇主と乳母との心得　宮本仲君

衛生法は実行に在り　佐々木政吉君

小兒保育法　加藤照麿君

小兒保育の心得　木寺安敦君

育兒の手引　岡本錦吉郎君

本会録事數件

婦人衛生會雜誌第六號
明治二十二年三月二日発兌

○婦人衛生一班(ハ妊娠養生之事)（前號の續）

櫻井郁次郎　述　佃　与二郎　筆記

滋養を食するに誤解すまじき事　其外　滋養物を食するにも其の通りです。大抵の御婦人方に伺て見まする所が　私ハ牛乳ハ飲めますと云ふのが一二人で八九人ハ先づ飲めぬのです、稀れにハ牛と云ふものが食べられますか杯と質問するものもある、甚しきに至てハ、牛の臭を嗅げバ吐くと云ふ人もあり升。滋養物ハ、妊娠者にハ此上もなきよろしき食物でありますけれども、之を用るに困難なるハ、誠に残念の至りであります。斯う云ふ実例が有ります、或る婦人ですが、妊娠しまして、所謂ツハリと云ふ者になった、懐妊後三月か四月で、非常に嘔吐がある、如何なる食事をとりましても、皆吐て仕舞ふ、何うしても這入らぬ、所で、或る医者が参りまして、其の病人や、看護人に勧めまして、成る程何んでも吐て仕舞ってハ疲れて仕様が無くなるから、アノ牛乳は大層に薬りになると云ふ事であるから、假令幾分は吐て仕舞ても、亦た幾分ハ腹に残るであろうと云ふて、彼の嫌ひの者に無理に飲ませた、幾度飲ませても納まらない、最早妊婦はツハリの為めに死に垂んとしました、其時に私も出会しまして、篤と病人に聞て見ますと、元来牛乳などハ嫌ひだ、嫌ひだが親類のものなどの勧めで仕方なく、飲むと、直ぐ吐くと云ふ、仍て段々調べて見ますと、何うも此の病人にハ牛乳ハ適当して居らない、ソレから何う云ふものが食べたいかと聞て見ましたら、斯う疲れてハ居るが、茶漬で香の物で飯を一杯食べて見たい、毒でもなんでもよい、一層死ぬなら食て見たいと云ふから、ソレは妙だ食るが宜しいと云ふので、香の物

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で茶漬を食べた、是れは様よく納まつた、夫れから漸々に遂に牛乳を廃して、香の物で以て余を継ぐとが出きた、是は四五年前の事ですが、私の親しく見たる事です。夫れ故、滋養物も其人によつては、迚も適当する訳にハ往きません、況して我邦の婦人の如きは、滋養物だからと云ふて、一概に用ゐるとは出きません、食物などハ習慣によりて最も注意すべき事と思ひます、詰り好みに応じて撰ぶべしと云ふのが、必要の言葉と思ひます。左れバ、其人にして酸酸が欲しいと言へば、其酸いもの、中で最も滋養分に富みたる物を与へると、斯仕向れバ、或ハ十分の結果が得られ様と信じます。

妊婦の飲物の事　穀物から、肉類、菓物と、食物の種類も色々ありますが、何れが悪るいと云ふとハ無い、通して用ゐられます。次に、飲物、飲物にも色々あります。湯、水、茶、珈琲の様なもの、或ハ酒牛乳、ソツプ等、此の飲料の中で何か宜しいかと云ふに、欧羅巴の人は水であると云ふが、私ハ日本の人にハ白湯の方が適当と思ひます。有機物も煮殺すと云ふ様なこともありませうし、何うしても悪しき水は直ぐみ用ゐられませんから、一度煮た方が宜しい。茶も不断用ゐて宜しい、茶の事に就てハ、欧羅巴の書物抔でハ、衝動性のものだと云ふので、産婦の婦人抔にハ禁じてありますが、是れハ風俗と、習慣で、朝に晩に、日本の人は茶に馴れて居ります、故に茶ハ左程に身体の害になりません、茶ハ餘り飲み過ぎると、夜る眠ることが出きぬと云ふ様なこともありませうが、我邦でハ決して茶と云ふものハ忌むべきでハありません、書物だけでハ畏るべき様だが、是れハ少しく斟酌しなければならぬ。然し我国の人にハコーヒーハ少し注意しなければならぬ。又ソツプ抔ハ、其の人の好みに応じて用ゐるがよろしい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

酒ハ餘り賞美すべきものでハありません、妊娠中ハ特別に注意しなければなりません。是れで飲食物の大略は済みましたから、是れから住居の上に就て聊かお話し致しませう。

妊婦の住居の事　住居の事に就てハ、机の上で論ずることの易くして、實地にハ随分むつかしいものであります。今一人に就ての有様で、斯うと云ふ家屋が適當であると云つても、一方の人には適當でないこともある、又能く適當としても、人によりて住ふことが出来ぬと云ふものもある。且つ衣食住の住に就てハ、餘り申すことも無いが、只空氣のよろしい様に、流通の好き所が眼目で御座います。

運動の事　次に運動と云ふ、是れが大切です、運動の事に就てハ、私も是れ迄取調べたこともあるから、一寸お話しますが、縦令妊娠をしても、仕ないでも、總て人は運動をしませんければ、身体の働らきハ充分でハありません、然し運動にも、程合があつて、過激の運動などハ、悪るい、或ハ重きものを携ふなどハ、往けません、其中で、最も宜しいことハ、逍遥と云ふて、徐々意に任して散歩することです。体操も程能く筋肉を動かす位で宜しい。バッシーブの運動と云ふて、人の為めに動かさるゝことあり、脊中を摩すなどが、按摩して貰うなどハ、妊婦の為めにハ、時々行ふて宜ろしい、併し腹を摩することは、少しく其技藝に長じて居るものゝ外ハ、決して妄りに人にさすりすることハ出来ません。

人力車は妊婦に大害ある事　其運動に就て私の調べたと云ふのは、彼の人力車のことです、人力車は妊婦に如何であると云ふに、是れハ甚だ宜しくない成績を得ました、昨年調べたのは、百人の流産者の中、二十五人は、正しく人力車の害に因て早産したのです。親類に病人があるとか、田舎から急に東京に出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て来たとか、三里五里の遠きより車を走らせたるの害です。次なる五十人は、全く病によりての流産、残りの二十五人は、其原因の不明なるもゝであります。シテ見れバ東京を離れた人力車の無い世界でハ知りませんが、東京で全く其の害の四分の一あるとが解かります、既でに其の害の四分の一なるを知りましたから能く此辺に御注意あらんことを望みます。然らば、若し用のありて遠方に行くときハ如何にせバ宜しいかと云ふに、成るべくハ遠くにハ往かぬが宜しいが若し行くならバ、人力車で徐々と挽て貰うとか、毫と好き意思ではありますまいが、籠です、籠がよろしい、是れハ害が無い様です。併し是れから段々擔ぎ人が下手になれバ、動揺して安全のものとハ言はれませんが、若しも近所に人力で行くならバ、腹部を突衝するを防ぐ様にすることが肝要なり。車にハ年に一度とか二度とかと、滅多に乗つたことの無い人は、必ず非常に腹部にあたります。ア、車が向ふから来た、犬が寝て居る、ハッハッと思ふと、餘計に腹に突衝する、それ故に口を結んで下腹に力の這入る様に注意すれバ、格別の事もないが、気をつけぬ事に乗つて、大きな口を開いて居れバ、ガタンガタンで腹に響けて、其害ハ一層に甚だしき様に思ひます。

妊娠の養生法に就て、尚は少しく述べ様と思ひましたこともあるが、本日ハ餘儀ない用事がありまするで、是れで御免を蒙ります。

○乳婆を雇ふべき場合、及び雇主と乳婆との心得方（前號ノ続）

宮本仲述
佃與二郎筆記

改めて雇主の心得を話ませう　此はあなた方に取りて最も要用であります、其心得と云ふのは乳婆を雇

つて子供を預け宿りをさせて給金を与へた計りで
済ません、綿密に申せば容貌を僅少くも中々面倒で
ハ、乳婆が参りますれバ先医者に充分の試験をして
貰うと云ふが手始めで、夫れから愈宜しいとなれバ
是れハあなた方の御相談で一年間雇うとか半年とか
極めるでありませうが、ソウしないで先一週間乃
至二十日を限り御目見と云ふ事にしたらバ大層宜か
らうと思ふ、何故なれバ一回突然に乳婆の試験をし
て始め乳が大層に張つて居る様でも二三日過ると乳
が出なくなる者がある、之は御目見前に必ず乳を貯
めて来るのです、然るが故に医師は先づ試験して念々
乳が能けれバ一昼夜なり二昼夜なり子供に乳を吸せ
て見て恢復た乳汁分泌量の多少を再び検査するが法
です、左なければ折角の試験も無駄に成ます雇人口
入所から来ても大凡ハ良うと云ふに過ない、是等ハ
あなた方が御注意なさらなければなりません、又乳

婆たる者の気質ハ一二週使て見なければ分らず、気質
の悪き者ハ乳汁が能くても僅置てとハ参らず、解雇
せんとするも既に一年とか幾月とかの雇條約の済た
る後ハ情実止を得ず暇を取らするの出来ぬに至る
ことなしとも云ひ難し、即ち條約取換せと云ふと大
業だが六ケ敷云ひば一年雇の約束を結び更に数日に
して之を破るときハ、乳婆の為に裁判所にも行なけ
ればならぬ事に成らぬ共云はれぬ、乳婆ハ御承知の
通り多は田舎から参ります、例へバ葛西や新宿又ハ
総房辺の如き処より参るとして多くはボンヤリ育ち
の者で教育などハ恐らく無い方です、夫故言葉遣ひ
も野鄙で「具れとヤー何ニグンベイ」など、云から人
に笑る　即ち傭主や女中に笑るれバ之を羞ぢ精神に
非常の感動を与へ　又卯ハ人に雇入られて究屈を感す
など旁々にて乳の分量を減することし有ます　又た田
舎に居て麦飯や芋や大根計り喰って居たのが身分の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上の人に傭へれてハ毎日御馳走が出る、そこで之れは結構だ豊年に逢つて宴会に招かれた様じやなど思つて頻りに喰る　喰ひ過れバ肩で息をする様になり消化の困難にあり気分ハ重くなる胃も悪くなります、胃が悪くなれバ自然に乳も出なくなると云ふ事があります、夫等ハ一方から乳母に向て申せバ無教育だとか賤いとか云ふて戒るのだが、併し乳母斗り悪いのではなく雇主の方でも気を付べき事である、原より乳母を賤き方の教師に頼ので八無し、言葉や動作の野卑なるハ構ふてもない処あるも笑ふにも及ばない、夫よりは彼の心を安穏にせしめ、乳汁の出に響を来さぬ様にする方肝心です、又た乳母にハ我が愛する所の子供を頼のだから甘美物を喰させて乳汁の澤山出る様にさせたいが人情なれ共、此も婆ヤア其をも婆ヤアにて滋味のものを与へなどし頻に珍重した時にハ、乳婆ハ日々運動の不足になりたるに引換へて飲食のみ多くなりて胃を害する様になるハ必常ですから、程能く運動と飲食とさせて乳汁の分泌を減せしめぬ様に致させなくてハならぬ、右の如く双方共に注意して始から考へ居ねばならんことです、夫故に乳母が来たらバ三八分に究屈を与へぬ様に致し續て先づ「お前ハ毎月何程の運動をして居たか」又た「お前の国ハ何処で家業ハ何だ」と問ふて御覧なさイ、農婦なれハ運動が随分多いと察し、商家なれハ坐業勝だと考へ、百姓なれハ野菜食が多く、漁家なれハ魚類を多く食し居たと鑑定しても宜からん、夫に依りて其れ相応に食物を与へ運動もさせなけれバならん、最初より固に運動も食物も一変することハ利益でありませぬ、漸々に傭主の家風に従つて運動飲食せしむる様に計るべし　是は必要の件です、然るに之を考へずして雇ハれたる当初の日より婆ヤア婆ヤアと外から貴れた時にハ、婆ヤアも亦自ら召使の大将軍と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あつた處で下女などを使つて威張つて居る下婢共
け乳母の機嫌を損ふと奥様の御機嫌をも合せて損ふ
譯が出来るから頻りに上ハ辺の御機嫌を取る、そこで
今迄田畑を耕作した百姓女が今ハ最早高貴の奥様に
でも成つた様に心得　一朝にして生活の度が変るから
ふ精神の働と云ひ筋肉の運動と云ひ悉く變更し從て
乳の分量を減し又其性質も甚だ稀薄になると云ふ障
碍が起るに至ります、是ハ私が屡見ました事です
就て一の御断が有る、或る所で乳母を雇ふと云ふの
で私てハ有ませんが或人が試験致しまして乳の分量
し多い性質も宜しいと云から其を雇つた所が、数日
立つと彼の乳ハ忽に不足して續て子供ハ病気に罹り
ソレから私を招ました、即ち診察した所が其児は乳
より起た病気に相違ない、依て尚ほ乳母を診するに
彼は大層胃を悪して居る、從て乳の出も性質も悪
い、其所で「毎月如何なる運動をし又た如何なる物を

食させたか」と聞ましたらば、肉とか卵とか魚牛乳な
ど西洋料理らしい専ら滋養になる物のみを与たと云
はれました、ソレから又乳母に對つて「今迄お前何様
の生活をして居た」と聞ましたら、此お邸に於ての通
りですと答た「ソレなれバ国ハ何處だ」と聞に、相州
在の片田舎である「何ふしてソンナ田舎で新しき牛
肉や牛乳なぞを食られたか」と問ひましたら、頻を赤
くして遠くから買て来と云ました、或ハ左様かも知
れませんが、察するに畢竟ハ粗食して居たと云ふが恥
かしさに斯の如き嘘の答を致したので有ると思ひま
した、夫から運動の事を聞て見ますと　始終坐つて下
女を使つて居と申ました、是も受取難い答で乳母奉
公に出る下等の農婦が毎日坐つて居らるゝ譯ハある
まいと推察致す、若し運動せずに寝て斗り居たら本
に無性の奴と見ます、私ハ之を信せぬ故「是からお
前毎朝家中の雑巾懸けをなさい又淡泊の物を食べて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

居る様にと申付ました處が、乳婆ハ大層不足の様で有つたが、之を守らしむる為め又更に其御主人に「若し私の言ふ所を守らぬ乳婆ならバ良き乳を得る目的がなき故暇を取らすが宜い」と申た、其時にハ余程婆には憎まれましたが、併し據なく彼も翌日ハ田舎で致た通りの動作し雑巾懸け水汲などの運動に勉強したものと見て、三日目に行て見ましたれバ、最早以前の如く稍々乳も張つて参る五日目にハ乳性も追々良く成て来る且小児も診療に依て快方になりて先づ一安心致ました、それより日々と追々に運動の度を節減し食物も適当の滋養品を能度合に與ふる様に移らしめました為に、全く完全の乳母に復しました、然る處で惜ひ事にハ其乳婆ハ嘘を吐くのと懶惰なる性質のぬけきらん為めに二三週間にしてお暇が出ました、稀にハ斯様な馬鹿もた者があり升から気を付ねばなりません。

茲に又た其の雇主たらしものが最も心得なければならぬ事ハ尚ほ両三件有るから之れを申します。

乳婆の品行と性質とを見なくてハ成ぬ、品行なる者は何かと云ば、先づ朝寝房で非常に肯張りをするとか、又人と喧嘩口論をしたり或ハ頻りに奥さんに告口をしたり、此地に行つても彼地に行つても交際の善ぬもの、又事を為に陰陽ありて子供を取扱ふには奥さんの前でハ甚だ親切らしく寵愛し、影でハ子供を放つて置きて自分の為たい事許をする様の無頼もので八困る、又性情に就て見べき所ハ悲み深いか怒り易く鬱閉するか、お饒舌で有るか等、総て七情の感覚の劇ひのハ佳けません、就中怒り易のハ佳ません　獨乙の或お医者が言れたに乳母ハ怒ると大層乳性を変し之を悪くするのみ成ず　終にハ子供を死に至す程の毒に近たるものだとて其例を挙けました、即ち或母親が夫婦喧嘩でもしたが何うかして大

甚激して居最中小児に乳を飲ました所が、其児ハ今迄(生後三ヶ月)全く健康で有たのに忽ち熱を起して且手足悪く痙攣てぐたぐたと人形の様に自由がきかなくなつてしまつたを見たと云々、夫ハ丁度病気の起り始に出逢たのだと疑はるかもしれんが、左れバ最一ッ之を確むる例が有ります即ち或御医者が経験上の話しを致して曰く、一の母親が育て数人の子供を設けたが育ち始めて三四ヶ月乃至五六ヶ月に至れバ終に死んでしまう、是ハ何故だろうと夫から母親の体質を調べて見ても乳を調べて見ても実に批を打つべき点ハ無い様だと尚ほ詳細に調べた所が、其の母ハ怒り易き性質で不意に腹を立つて何時でし子供に不良の乳を与へること度々あるを認め、其訳で児ハ急病を起して死んだので有らうと推察した故遂に乳母を雇はしめた、之に依りてか初めて其児が健全に育つたと云ふ事を見たと話しました、此例に

就きましても腹立ち深き母親の乳は極めて悪しき性質の物に変ずると云ふ事が訳ります、且つ子供が病気になる斗りでなく子供を死に至らす程の物となる証拠も出来ました、サレバ乳婆を雇ひますにハ自由自在に選でも雇れる者であるから、往ない処アは解雇しても後口を雇ふから主人の方でハ宜しいが、解雇さる、乳母ハ気の毒ながら自業自得です、其所で主人たるものハ乳母の品行性情等の良不良も注意して試ねければならんト述るのです、併し各位方(貴顕の家)にお備への乳母ハ兎角大臣の思を為す(田舎者故に猶更に気がつまる)故に心安らかに寝に気遣させぬ様に注意してやらねバならぬなり、然るを頻に口やで行儀が悪い風俗が卑い杯と嘲りて乳母を毒しめ遠慮斗りせしむる様に為し、之に依て乳の出も性を悪く致したる時ハ全く雇主の罪で乳母を咎めて暇を取する事ハ無理ありと考ふべし、是でハ無辜を罰

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

する惨酷者と毀られんも敢て言訳の出来ざる所であらむ、

猶ほ乳婆の最も疵とすべきハ子供を不親切に扱ふことと即ち真実に可愛がらぬことです、元来子供を心中より大切にせんと思ふ愛情の有る者なれバ必ず陰陽なく丁寧に取扱申さんと云、親実から主人の命令も背かず医者の差図も守る、再言すれバ我子も同様に育てたいと云ふ考へが胸に一杯浮で居から、使い能くも有り子供の為めにも利益になり而して前の例に述べた乳母の様のことはありません、即ち彼は乳も宜しくなり病も無く況乳の上には誠に是ぞと云害も無いが 種々外形を飾て嘘をつくと云ふ疵と、最う一つハ寐相が悪くて何時でも子供ハ夜具から放り出して自分一人で寝て居るなどのことから解雇されました、寐相の悪いにも仰におくのと下に俯くの二つ有が子供を育にハ俯くゝ方が悪い、其所以ハ先づ小児を懐寐すべきことが有ます、懐寐の善か悪かを申す事ハ何れ此次に御話しませうが、抱眠する時にハ兎角に乳房を含ませた侭睡に就と云ふ習慣が出来る、而して若し乳を飲せた侭俯けに成りて大きな乳房を以て孱弱なる児の鼻と口とを蔽ふたらば呼吸が直ぐ止つて死んでしまう訳なり、之を子供を圧潰すと俗に申し升 併し或る母親の体が大くても真に子供を押潰すので無くて乳を飲せつゝ口を壓し塞きて殺すので有、昨年の三四月頃か芝の兼房町で或る母親が乳を飲せた侭眠りて其児を殺したとお話しが新聞に有つた、是は少い事だが伯林でも乳婆が雇主の子を殺した事が有る、過ちとは申すものゝ兎角雇主の子を殺したのであるから其の乳婆ハ寐相の悪いお調が判然した上で三ヶ月かの懲戒で済したが、折角に子を育て貰ふと思つて反つて子を潰されては堪らんです、其辺ハ母親抔雇主の方で注意し善悪を撰択せなければ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ありません
乳婆ハ頻りに御家中より敬愛される（決して遠ざけられる懸念ハ知らぬお）、雇主の方でも多く鄭重に扱つて呉るから乳婆ハ増長して困る、若し増長し過ぎて来た時ハ暴く叱らずに静に言ひ聞せるのが母親の務めである、若し之を投遣りにして置けバ我ゝが御し切れなくなります、大きな聲で嚇してハ往けません乳母の納得する様成程と思ふ様に軟かに諭すのが宜しい。

又乳婆が自分の子供の事斗り考へて、即ち親の身になれバ誰れしも其子が可愛に相違ないから我子ハ何うしたらう里子に遣つては有が大切に育てゝ呉るか知らんと、主人の子を見ても頻りに愛憐の念が増して次第に悲しいと云ふ感じが起ることも多ければ、其れも亦乳を悪く致して行ません、若し其様の事ある時ハアナタ方の美しきお言葉と御懇情とで安心する様に説き勧めて、お遣りなさらなければなりません。

是れで乳婆の方は済ましたから更に乳婆に托した子供に付て母親が注意すべき件がある、即ち今度ハ乳母ハ果して親切にするか否か、人任せにしてハ訳が分らぬから自分自から補助をしなければなりません、例之ば御襁褓が汚れて居れバ之れを仕換てやるとか抔と何かに付て乳婆の気の抜た所ハ心附てやらねバならん、ソレから不潔御話で失敬ですが子供に付て注意すべきハ乳を吐く事である之は病気で吐くのも健全で吐くのもある、子供の胃ハ大人の様に大きくなつて居らぬから飲み過したり又ハ飲後に僅か身体を動せバ乳が出易い、併し病理的に出るのでなければ宜しいが病気なれハ大変ですから早く療治を加へなければならぬ、夫から又大便も始終見なければならん、即ち今日に幾度通利が有つたかと日々に乳母に問ふて見る、一日に通常で嬰児ハ三四度極めて少な

いので一二度多ければ五度のこともある、若しも日に一回或は六七回に及べば、既に是は常態でなく必ず腸胃に病気が有てはないかと穿鑿して見なければならない、又小便は何度位か大概十二三回なり、然し多ければ善いが少き時には早く診察して貰ふが宜しい、若しも乳母が不注意なれば襁褓が或度濡れて之を取換ないかと云ふことを標準とするがよい、夫れに又分量の多い少ないにも気を付けねばならん、是れは襁褓を一枚通して濡れたか二枚通したか三枚通したか聞けば直ぐ分明ります、（斯の如き穢ない話を各位方に為てはならぬ筈ですが衛生会の事ですから御免を蒙ります）、扨て大便が三度と極れば何う云ふ色かと聞て見なければならん、極黄色い卵のフナくの如く有れば宜しいが青色若くは粒々白色の物などが出たならば此奴怪しいと思つて診察を受るが安全です、（白色粒々として居るのは消化の悪しい証拠です、其消化せぬ事を知つたならば早く治療を受なくてはならぬ、是れ丈けの注意は乳母の不足を助け又自分が育るにしても是非其通り致さなければなりません、是等は児の健否と乳汁が適して居るかを知る手段ともなるべし。

其上に又乳姥が適当して居るか居らぬかを論ふるには、其生長の仕方即ち体丈けは何の位に伸び何の位の肥り方で有るかを見なければならん、是れは能く調べて早くに日々に生長するを認むれば乳の適当して病気でないと云ふ事が知れる、生長不充分なるときにも早く診察を受くべし、此外雇主に付て綿密に云へは未だ有りますが最う廃めませう。

夫から乳姥の心得として雇た時に、第一に申渡箇条は家法を守もる事、子供を親切にする事、又乳姥自から其衣食住に付きて衛生を守らねばならぬと云ふ事、其衛生はアナタ方が此会でお聞になつた事は一

々御申聞せになるが能からうと思ます、次に前にも申た通り感情の烈しきハ害ある故に自から避る様に心掛くべき事、（乳婆の餘り遠慮深くして恐を懐き居るのは悪いが、ツウヅウシイ乳婆にも困る、多分に悲しむも怒るも皆な悪い、恐させると乳が出なくなる、一寸した稗史を見ても親子の情合の本は乳婆親子を感せしむる故適せず、乳婆ハ可成呑気に致して居るが宜しい）等です。

終に一言暇を出すべき箇條の事を申ませう、（之を例に為されて私ハ恥になるかハしれぬが）乳婆に暇を出す點ハ、乳母に不治の病ある者、盗み心のある者、朋輩と不和を醸すこと多き者　子供を不親切にする者、寝相の悪しきもの、七情の劇敷発動するものも宜しからず、是よりも一般大切なるハ乳汁の少ないのと、乳性の悪いので小児に不適当なる者、又た当坐宜しい様でも後日に成って遺傳すべき様なる病の発した者も勿論往ませんへ、是等のことに基きて御解雇に成つたらば乳母も御断ハ申ますまいと思ひます、餘り長くなりましたから今日ハ是丈けとして餘は後日に譲りませう　（完）

○衛生法ハ実行に在り

（明治廿一年十月常会演説）

佐々木政吉述
佃与二郎筆記

今月私の演べまする題ハ衛生法ハ実行に在りと云ふので決して聞き込んで宜しいと思ふ衛生法ハ直に之を行ふがよいと云ふ事であります、自分でも成程と承知してても之を行ふをハナカナカ見事でハありません、然し之を思ふばかりでなく行ふ事をしなければ何の役にも立ちませぬ、からだハ大切であるから必ず是れハ斯うしなければならぬとの考へからして奮発も起り実行するのであります、是より先づ初めに衛生の目的と云ふ事を御話し申して偖自分のから

ながら大事だから一層丈夫にしなければならぬと云ふ感じを起して頂だきたし、総て昔しからも申す通り何でも人の行ひは心から感じて出る心から仕ようと思へば何でも出来ると云ふ事で、然れば衛生は此の如くに大切であれば是非之をしなければならぬと云ふ感じを起すことが実に第一であると思ひます。

元来衛生の目的は何人であるかと云ふに、病の起らぬ様に平生身体を丈夫にするので、病に罹りても病に負けぬ様にすると云ふのが衛生の目的であります。既に病を起こしますれば医を見て薬を貰ふたと云ふ様な事が屡ばあります、酒を沢山飲む人が後になりてその酒の為めに肝臓病になりたるを悔みても、已に之を起こした上は最早遅しであります、それでありますから近頃衛生家と云ふものが衛生法を説くは、実に斯く尊とき貴き考へであります。

扨て衛生法に二つの仕方がありまして、一は病の原を打拂いて仕舞ふと云ふのと、一つは吾身体を丈夫にして病の原を受けない様にするのであります、一寸戦ひの事に譬へれば、一方は敵に襲はれない様にするので吾自即はち本城を堅固にして敵に犯され侵入せられない様にするので、一方は敵を撃拂いて本城の安全を保つことであります、此の二ツの内一軆何れが宜しいかと云へば時によつては前の一方が宜しい事もあり、又時によつては後の一方が宜しい事もあります、併し概して何れが為し易き歟と云は、吾身を保護し壮健にして置く方が為し易くあります、且つ衛生には多数の人で無ければ出きぬ衛生と一人で出きる衛生とが有りますが、其れは公衆衛生と自家衛生とのわけで、一は多数の人が其働しなければ出きぬが、一は誰でも一人で仕様と思へば出きるのであります、ソレて今日御話し申す所は自家衛生の極めて簡易き法だけにて公衆衛生の方は申

きぬ積りてあります。

衛生ハ肉体と精神即ち心とに係けり居るものにて、心の衛生にハ教育あるひは修身学などハ肝要のものであります、依に無慾ハ長寿の基などゝ申して餘り妄に物を欲しがつたりなどしないのハ長寿の基で、此れ等ハ心の衛生法の中であります、今私ハ是れより肉体の方の衛生に就きて演べます。

一体御婦人のからだハ世間に對し何ふ云ふ関係のものであるか之を一寸演べます、御婦人方のからだハ実に大切の者であるが、何ふ云ふ所で大切かと云ふに、先づ御自分の身ハ申すに及ばす子孫に丈夫なる児を得やうと云ふに大切であります、又一家を治むるにも亦甚だ大切であります。

殊に遺傳と云ふ事がありますが、遺傳といふは譲り傳へることで両親から子供に良きことも悲きことも傳へ系を引くと云ふ事であります、例へバ両親が弱ければ何うしても其子ハ弱く、両親が肺病なれバ子供にも肺病が傳はるもので、これハ花に譬へれバ草木花の好き花を得やうとするにハ何れ好き種子を撰ばなければならぬ、悪い種子を蒔けバ奇麗な大きな輪の花は出きず、好き種子を蒔けハ花も奇麗に輪も大きなのが出きます、それ故好き花を得やうと思へバ誰も良き種子を撰びませう、人間のからだも其通り、両親が弱くつて丈夫の子を欲しいと云ふのハ餘程六ケ敷き話しであります、其外ハ児が母の胎内に在る間ハ御承知の通り先づ十ケ月で、その十ケ月の間母の胎内に在る中ハ絶て母の血で養はれ、又生れて後は母の乳で養ひます、児を養ふ時分に母のからだが弱ければ良き乳ハ出ず、又子供も丈夫に育たないと云ふ次第で、若も世間の御婦人方が皆この通りであれバ世の中の人間ハ必らず皆弱きものになりませう、是等の所を考れバ御婦人方のからだハ、實に御

自分一人ばかりでなく、一家にとりても国にとりても大切のをでありますから、常に自分の身体を養ひ縦令僅かの衛生法たりとも之れを守りて実行しなければなりますまい。

是れより自分が行ひたいと思へば行ふをの出きる簡易なる衛生法を申しますが、佛蘭西のある小本に、精神の快楽と飲食の節用と運動の適度とハ是れ実に毎つでも確かなる良医であると云ふことが書いてありますが、精神の快楽とハ心に始終快楽を感じて居ることを申します、又餘計に飲食する様なことなく、又よく運動を適宜にする、此の三ッが真に良医であると云ふ事であります。

此れより先づ運動の事を御話し申しませうが、運動の事に就てハ此の前の演舌にも御話しがありました事と思ひますが、然し私ハ同様の事を話す人ハ沢山ある程宜しいと思ひます、アノ人も斯ふ云ふしコノ人も斯ふ云ふから真であらうと云ふ譯合ひより、尚ほ自分でもやって見やうと云ふ御考へが起るでありませう、既でに御聞きにもなって居りませうが、古くつても古るい友達が好い抔と昔しから言ひ傳へて居るが、運動の演舌も古く古い友達であるでしよう、頗る有益な要用の事と思ひますから茲にも復た申すのであります、私しも西洋に居りました時、西洋の婦人の様子を見ましたが、日本の婦人ハ西洋の婦人よりも運動が少ないと云ふは一ッの缺點であらうと思ひます、人間のからだに着いて居る手足と云ふものハ造物主が動かすべき為めに拵へたのでありますから、度に過ぎては往けませぬが適宜にハ動かさなければならぬものであります、先運動をしないなれハ如何なる害が有るかと云ふに、運動をしないと第一に食事が進まなくなり、又大便の通じが遠くなり、それから心持が快くなくなります、又婦人に

よりてハ運動の不足よりヘーステリー抔と云ふ病気を起すこともあり、又運動の不足より顔の色が蒼くなるものでおります、一体顔の色の美しきハ外の空気と日光とに當る為めでありますが、家の内にばかり居れバ外の空気に觸る丶ことが無ければ次第に顔の色が蒼くなるのであります、故に運動をするのは唯筋肉を動かすばかりでなく外気に觸れてその利益を度々受けると云ふことも肝腎であります、然らバ運動をして如何なる利益が有るかと云ふに、通じもよき食事も進み気分も快くなります、私共も書生として居る頃学課のある間ハ勉強して心持が宜いが、夏の休暇になれバ何うしても身体を使ふ事が少ないより休暇中は常にからだの都合が悪いことを覚へましたが、矢張運動の少き為の害であります、これを以て御考へになれバ成程運動をしなければならぬと云ふことハ御解りになりませう、日本の御婦人方でハ上等の御婦人方が弱あります、是れハ実に困つた事で下等社会の婦人なれバ何うしても自分でからだを動かさなければならぬ必要があるから宜いが、中等社会の婦人では下婢抔を召使ふて御自分は火鉢の側に坐て居て事が足るから、ソレで何うしても運動が不足します、西洋の婦人なれバ運動をしなければならぬと云ふ事が頭に染込んで居ますから、日暮方になれバ二三時間位は務めの様にして餘り塵埃の立たぬ市街や公園抔を目懸けて出かけ、そう致してからだの運動不足を補ひます、又欧羅巴辺でハ御婦人方が自分ばかりでなく子供衆をも澤山連れて公園抔を散歩する有様ハ私共が外から見ましても実に快き感覚を起します、此れハ日本抔でも餘程増しては参りましたが実に宜しき風俗と思ひます、アナタ方にも御勧め申します今日からでも御帰りになつたら（今日は天気が悪いから往けませぬが）忘れずに運動を御勉

めなさる様に致たくあります、詰まり運動の必要と云ふ事をアナタ方の脳髄に染み込ませて頂きたいものであります。

（未完）

ロ小児保育法（一月常会演説）

ドクトル加藤照麿述　佃與二郎筆記

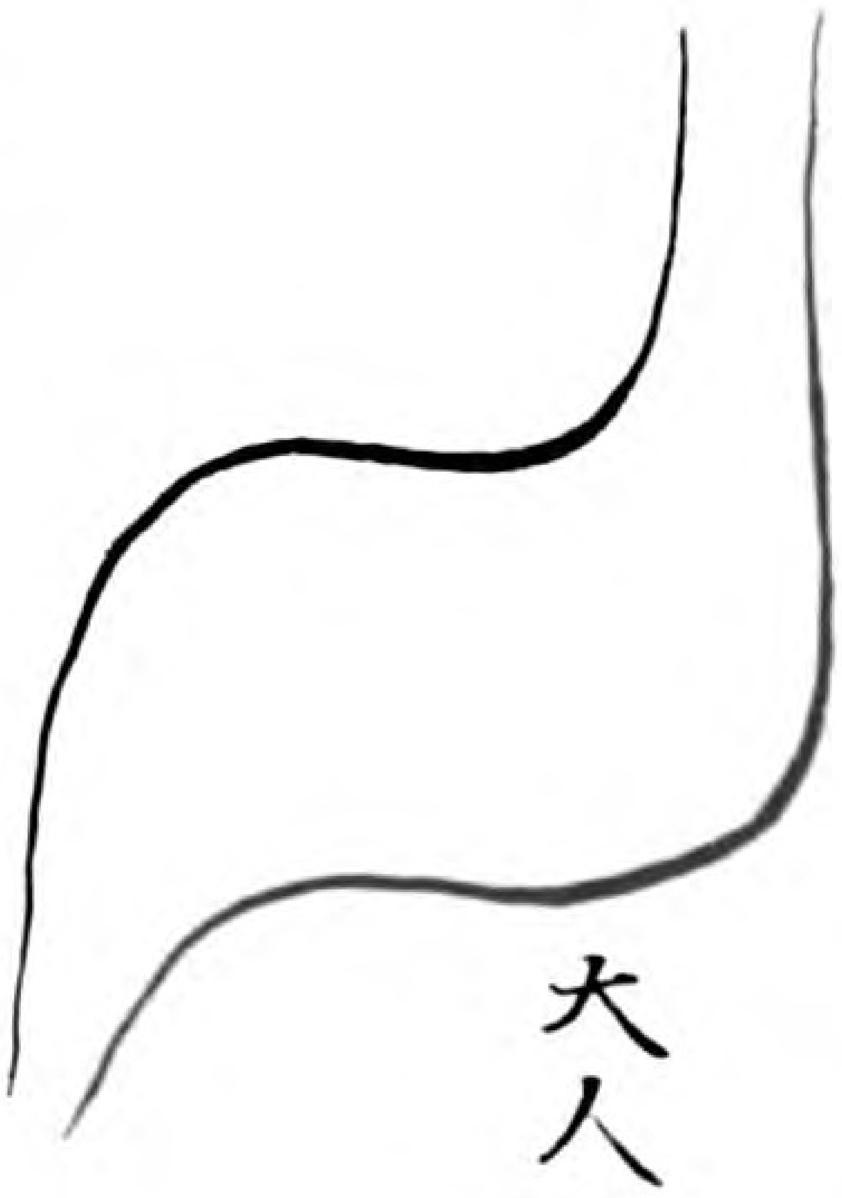
小児保育と申しては僅か四字ばかりで御座いますが、大変に事は廣いのです、小児保育と云へる事は近頃の学問で佛蘭西より始まり獨逸に於て委しく之を調べたので、獨佛二国を除きては餘り他に盛に開けたる所はありません、之れを区別して申せば食物の事、衣服の事、其他種々御座いますが、今日は新年初会にて何か後刻面白き御遊戯もあるとの事ですから、私は只小供に食へさせる物に就て三十分ばかり講述し餘は其の御楽みに譲ります。

小児保育法の事を私が爰に述べましても一寸詰らぬ事の様にも聞こへ、まだ御若き方々に對しては一句に價直の無き話しです、併し私が獨逸に留学して居る時分に其先生が仰せらるゝには、足下が日本に帰つたならば大事なことだから何卒して此の小児保育を廣めて呉れ盛んにして呉れと、永き間世話になりましたる有名の先生に私は依頼を受けましたのです、故に私は唯其先生の假聲をつかふだけです。

世の中の総ての動物の事共を能く考へますると人間の小供が一番世話のやける者です、下等動物の魚類の如きに至れば、南海に卵を産みて其侭己れは北海に遊泳し去りますが、卵は自然に孵ける則ち親は構はずに小供は成長するのです、少し等を進めて、犬や猫になれば三匹も四匹も腹から生み出す、併し魚類に比較すれば三日なり四日なり乳を飲ませなければならんと云ふ事になつて居る、けれ共其様な事にては人間は育ちません、上等の動物になればある程育て方が六ケ敷のです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

只今まで本会には佐々木先生や宮本先生が小供の事に就ては色々の御話しがありました様子ですが、小供と大人とは如何にして消化が違ふかと云ふ事を確めないと少し分りませんから、重複を顧みずして実に申上るが、第一に小供は口を動かす所の筋と云ふ者が大人よりも弱い、換言すれば物を噛む力が大人の様では御座いません、又唾液と云ふ者の出方に多少の差がある、乃ち初の内は極少いものです、其外口の事は別に述べませんが唯書にかゝないでは解かりませんのは胃袋です。


大人の胃

小児の胃

大人の胃は大きくして横さまに為て居るから食物が中に留る事が出きますが、生れたての小児には殆んと其違しないと云ふ位、有る事はあるのですが早く云へば飲物即ち乳などは縦に流れて留る事は出きんから容易に乳を吐くと云ふ事が起るのです、先づ説明は此位に止めて次に一つ考へなければならん事がある。

小供には何を食べさせたら宜しからうか、此の様な大なる間をかけます、先づ物を食るにも歯が御座りませんし其上胃も弱いから第一柔かの物でなければならぬ、故にアナタ方も御承知の通り一番に宜しいのは生み親の乳です、併し小児を産みて二三日の間は脂のある小児には飲ませて悪い乳が出ます、ソレですから生れてから直ぐに母の乳を飲せると云ふ譯にも往かぬ、然らば乳は何時頃が一番宜しいであらうかと云ふに、小供を持たれたる方は御承知で

もありませうが、産後二三ヶ月位の時が一番に多く出、又た宜ろしいのが出ます、且つ乳の出るのは人種によりても違ひます、伊太利婦人は世界中で一番餘計に乳を出すと云ふ事ですが是れハ本當で御座いませう、又体格の強壮なる人と衰弱したる人とによりて分量の多少ハ御座いませう、且つ一すヶハウても知れるが先づ固くして大きいのが宜しい、尤も固きか減にもよるが小さくしてこちどたる乳ハ澤山の乳ハ出ません、又婦人ハ二十歳より三十歳までが一番乳の澤山に出るもので子供を度々持た人ハ餘になる程乳の出方が減じます。

生み親が自分の子供に乳を呑せますと色々善い事が御座います、先づ産を致しますと素と子宮の中で次第に大きくなつた子供が産れるのですから其後が舊の様になりません、然るに乳を飲ませますと早く子宮が舊の様に小くなるので、若し早く舊に復さないと病に罹り易いと云ふ患が起る、是れハ母親に大事の所です、故に小供にハ一番生み親の乳が宜しく、生み親ハ又乳を飲まれるのが宜しいのです、又人乳が一番安價なるものです牛乳の様に買に及ません、其他自分で乳を呑せますと常に抱事が度々有るものですから自然親子の情愛が厚いものです。

少し委しきに過ぐるかハ知れませんが母親と為られる、人の為めに申して置くが、妊婦が六ヶ月にし八ヶ月にもなつてまだ乳首が出ないで仕方のない人が澤山にあります、此等の人ハ早く水で擦ッたりつまんだり又アルコールで流ッたりなどして大きくしなければ生れた子供が乳を呑む事が出来ません。

母親ハ乳を飲ませるのが當前でハあるが、又飲ませ兼る場合がある、然して是れハ是非母親でなければならんと定めたる必要の起りハ、佛蘭西人が誌ぬ事をして獨逸人が矯正したのであると云ふものハ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佛国の貴族や勅任官たちの妻君たる者ハ、日本の風俗とハ反對で何れも交際に立交り良人の代りに出かけける事もあるから、始終小児を胸におく懐に抱きて奔走する事ハ出きぬから、自ら小供を保育すると云ふことハ無い、且つ乳を飲ませると早くおばあさんになルト云ふ様な所から、人工養育と申して牛の乳などばかりで育てる、之さば防ぐ人として獨逸人が目下工夫して居るのである、其外に自然の擬乳筒で母親の乳の出ぬのがある、是れハ宜しく医者の診察を受けべき者です、又病によりて飲ませられぬ乳がある、即ち一番に恐るべきは肺病の結核と申して遺傳性の病ハ毒が乳の中から出ますから決して之を以て育てる事ハ出きません、又精神病の如き癲癇の如きハ子供をあづけることハ出来ません。母親が傳染病に掛た時ハ元より子供をはなさなければなりません、併し梅毒だけハ飲ませても宜しい時がある、ケレ共ソレは医者で無ければ解かりませんから医者が診察したる上で申上る事にします。尚一ツ貧乏人の小供にあれバ飲乳して居ることハ出来ません、獨逸などでハ女房が薪を挽き亭主が薪を割るを以つて生活として居る者が澤山にある、此等の者になれば朝早く家を出たなりに夜る帰て来るから自ら小供の世話をして居る事も出きぬ、之に向て是非とも乳を飲ませろと云ふのも無理ですからこは何かの方法を設けるければならん、就てハ乳母の話しですが是れハ前回に宮本さんの御話しもあり時間にも制限のある事ですから私は省略します。

子供に乳を呑せながら母親が寝入ると云ふとハ極悪い事で御座います、自然澤山に呑せすぎて子供の口中で乳がたまつて腐ることがあります、又西洋で乳房が口一杯に這入つて、子供が呼吸が出来なくつて死だとが随分あります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次ニ乳を飲ませるに右なら右ばかりと定めて、例へば朝八時ニハ右の乳ばかりを飲ませて左りの乳を十時ニ飲ませる時の為めニ残して置くが宜しいか、一時に少しづゝ左右を飲ませるが宜しいかと云ふ事です、是れには二ツの理屈がある一方ばかりを限りて飲ませると云ふ説は、子供を持た方は御存じて御座いましやうが、子供に乳を飲せる時に初の内ハ薄き乳が出ます、夫れから段々濃く成ります、夫れ故若し母が左右から一時に飲せますと薄き所丈吸てしまつて肝心の濃きよい所はいつも飲ませずにしまいます、又他の理屈ハ一方からばかり飲せますと自然長く吸いますからハグキで乳房を傷けたりする患がおりますと、云ふ二つの説でありますが何れがよろしいとも未だ爭て決しません、がナカ〳〵六ケ敷き問題で私にも何れとも申上られません。

又月経の有時には乳の中に膿が澤山に出ますから、小児を持方は御存じて御座いましようが小児が下痢を起す事が御座います、若下痢がつよい時にハ始めぐりの終まで牛乳を飲せる方が宜しう御座います。

何時まで乳を飲ませたら宜しいかと云ふ問題は一言に云へばソレ迄だが随分六ケ敷きまで、強壮の人も虚弱の人もあるから一概には申されません、昔しの伊太利の人は小供ニ乳さへ飲ませて居れバ妊娠することハ無き様に考へて居りました、夫れ故四五歳にあるまで飲せました勿論理論の解らぬ人で御座いませう、併し欧羅巴では是れまでは餘り乳の飲ませ方が少なかつたと云ふ事です、出生後六七月に至れバ最早飲ませぬのです、獨逸の有名なるブラウンと云ふ人は人間は二百八十日間子宮内に在る者だから矢張二百八十日飲乳させれバ宜しいと、戯謔の様な事に聞ますが如何さま一理ありて御座いましよう、

又フライミマンと云ふ是れも有名の人だが、此の人は人間の歯の生へたのは神様が食物が食べられる様にと生やして下さるのだから其の時ハ最早母の乳

を離しても宜しいと云ふ説を唱へた、ケレ共今し述べた通り同一の小供でも違ふのだから其ハ医者と母親と相談の上にて共ふるより仕方が無いのです。

乳離れハ何時為すへきか、之は暑き時ハ宜しくありません何でも秋か冬の間即ち十一月より三四月頃が宜しいのです、併しながら十月頃出生の児で翌年の六七月に乳離れを為すべき時になれバ、寧ろ一ト夏推し通して飲せ、寒さに従へ乳を離すがよろしい、渾て夏ハ物の腐り易きもので、胃が乳ばかりに慣れて居る所に急に他の食物と換られバ、腹中に腐敗して腹を下だしたりするから、夏は乳離れを為さぬ様にしなければならんのです。

次に一日に何の位飲ませて宜しいか、何度に飲ませたが宜しいか、兎角之を聞く人があるが、夫れハ一寸御返事が致しかねる、医者に言はせれバ随分六ヶ敷きことを申すが、併し迚も其の通りに行はれるものでハ御座いません、唯之を折衷して注意致すまでゞあるが、西洋でハ先づ二月の間ハ一時間毎に飲ませます（殆んど六十日です）、それより四月五月迄位ハ二時間毎、其以後ハ三時間毎位に飲ませ次第に其量もあげ時間も延ばします。

以上ハ母の乳に就てばかり申したのだが、八九月に至りて歯の生へる頃になれバ母の乳ばかりでハ不足を告げますから外に補ふものが無くてはならん、依て今度は牛乳で育てます、牛乳は人間の乳に比較すれバ滋養分が多分にあるのです、人乳は産後二三日は油の多き乳が出るから飲ませられず、夫れより次第に良き乳となり二三ヶ月頃ハ最良の乳となり漸々に濃くなる、其の成分の如きハ医者でなくてハ解かりませんから申しませんが、重なるハ脂気の者、蛋白質の者、乳糖と云ふて甘みの少なき砂糖の如きものです。（未完）

○小兒保育の心得（十一月常会演説）

木寺安敦述　佃与二郎筆記

斯の如く高き所に登って御演説なさる人は何れも学者とか博士とか何れも立派な方々で有ります、然るに私は何も存じません人者でアナタ方に対して御話し致すは己れ自らの心に恥る事で御坐います、然るに更に一席の談話を致さうと思ふのハ老人丈にお医者様との御交際も随分致しましたから、之れに依りて聊か見聞したる所も有りますから之を申し上るのです、併し私如き者の話しハアナタ方に於てハ疾くより御承知の事と存じます、勿論私の述べまするのは聴衆の諸君に申し上るのでハ無く、御一家内の御召遣若しくは御出入の中等以下の者に此の御話しを御帰宅の上御話し下されたならバ幾分の益する所が有ふと思ひます故、私ハ決してアナタ方に御勧め申して御話しするのでハ無い中等以下の御召遣に普通の衛生法を行はせ度いと思ふが志願で有ります、又アナタ方に申し上るなれバ言葉付きを叮嚀にして謹んで申し上なければならぬのだが、中等以下の者に対して申す積りで有るから或ハ俚野鄙の言葉も出るで有りませう是ハ御用捨を願ひます。

私が小兒保育法上の話しをすると云へバ、是又甚だ学がましき事で有て、何人となれバ私ハ小兒医者では無い学理を知りたる者で無い、然るに斯の如き演題を述ると云ふハ実に嗚呼ヶ間敷事で有る、併し私は自ら自分の子も或人も育てたる経験も有り、又色々聞かぢり升た事を御話しするに過きませんゆへに、一向に細かい事は申上る事が出来ません。

今日は日本の事も往かず、支那の事も往けず、先づ総て西洋に則りませんければならぬ、併し支那も日本も然う捨た者でも有りません、小兒保育の事に就ては既に私共が昔し読んだ本の中なに書て有る、既に

は古る臭い話やな話しでハ有るが、文王の母太任は胎教カリと云ふて妊娠の時より教を施したと云ふ事で有る、シテ見レバ既に支那の古き所でも生れてから教ハを施したのでは無い、腹の中に在る時より目にハ邪しき色を視無い耳にハ淫しき聲を聴かせ無い鼻も口も一身総て吾を正しふして胎児に教へた、西洋に於てハ妊娠をすれバ英雄豪傑の畫像を懸けて置て見せ母をして逞しき感じを起させると云ふなら即ち邪色を視ないので有る、又西洋にては妊娠すれバ勇ましき唱歌を聴とか活潑なる音楽を聴とか之れを務めて居るのは即ち邪聲を聴かないので有る、是等ハ西洋の教ハでも支那の教へでも別に違ふ所は有りません、胎教と云へば可呼に身体を扱ひ、所謂躁ちせぬと云ふ如きが私の所謂衛生法で有る、今日西洋にて行ふ保育法ハ決して珍らしいのでは無い、二三千年前に此の事が有ッたのです、細かく申せバ批難す可き所も澤山に御坐りませうが、其本主意ハ古今同一徹で有ふと思ふ。

今日に於て小児を育てるに何が害になるかと云ふ、私ハ害の方から御話しする積りです私共の悴を始として子供を育てるに加たる者ハ必ず泣くと云ッて乳を飲せ轉んだと云ッては乳を飲せる、泣ても笑ても乳、其乳を飲せるに就てハ実に不規則千万の事で有る、先づ乳を飲まするにハ何時間目に何分間飲ませると云ふ程度を定めなければならん、大人でも一日に五度も六度も飯を食ふたならば如何の丈夫な腸胃を害しヨす、併し大人ハ心に厭やだと思ふから食へない、此位で宜しいと云ふ加減を知て居る、ケレども小児ハ何人にもしらぬ者で有る知らぬ小児に程度も無く乳を以て責め付け、遂に飲ませ過ぎを致たして身体に害を起すハ知れ切ッた事で有る、扨其の乳を飲まする程度時間割ハ一々私ハ覚へて居りませんが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ら御話しは出きませ人が飲ませ過ぎ無いと云ふ事に御注意が第一の肝要で有ふと思います。

皆様方には決して無き事では御坐りまするが私共京橋区住居の路次を入て裏店の景色を見ますれば実に哀れ無情の者が有る、何人となれば彼の大小便を始末する湿布の如き物も実に不潔極まる、其の不潔なるは已れの身代の釣り合に依て致し方も無いが、假令薮衣でも手健めに洗濯して能く乾した物のみを用るますれば宜しいが、然うで無く不潔の侭に小児に宛がつて置ますから既に已れの身体に内着したる不潔物より身体を害する事が往々に御坐ります、是は決してアナタ方のお目に留る様な事は御坐いますまいが、私共常に其の実際を見て実に驚いて居ます、又ソレより少し上の人に於ては或は綺麗でも有ふ、併しこ品物は綺麗でも或は洗濯の行き届か無い様な事が有る、又洗濯しても乾き前の物が有る、左すれば矢張同一の害を起す者で有りますから身代の宜き人にても能く気を付けて下婢や乳母に仰せ付け置れん事を望みます、若し之を等閑に致しますれば必ず害を小児に遺す事と存じます、其故私の考へハ何卒こしめ及び衣服ハ美麗なるより清潔なるのを澤山に備置き、何時にても取換るゝの出来る様にするが肝腎にて、其上前申す通り湿りたるものハ其湿を小児自身の体温にて乾かすものなれば、其子の体温に変動を起し為めに寒冒するものなれば、よくよく注意すべき事と思います、又日光に曝すは甚だよき事にて、之が為に有機物を分解するものなれば、襁衣の如きハ勿論寝衣、布団等ハ隔日とか三日目とかにハ必ず大陽に曝すのが宜しう御座います。

又小児に大小便をさするにきまりが無い、畢竟日本の小児にハイじゝ仕損い等の慣せが有る、若し一時間とか二時間とかナンとか時を定めて大小便に注

悪するなれバ、決して其様な事ハ有るまいと思ひますと云ふものは、身体の慣れて仕舞いまして身体が自然に定まるもので有る、其次ハ御婦人方の前で申すハ恐れ入りますが、御維新前ハ大坂や西京の婦人は途中でも小便を為す事を憚ら無い、東京の婦人にハ決して無い事です、東京の女ハ心懸けにも依りませうが上方者の様に途中で致す様な事ハ有りません、小児でも癖せの付次第で其の通りで有る、併し是ハ小児の悪るいのでハ無って親が勝手次第の時に致させますから小児も程度が定らぬ様になる、若しも親達が注意して刻限を定めましたならバ、裏店と申しても今日の如くに汚いお湿布が懸ると云ふ様な事ハ、少なかろふと思ひます。

寝る事も同様で今日の小児に於てハ起すにも無理に起し、寝るにも無理に寝せる様な風が有て少しも其程度と云ふ者が無い、是れハ小児を愛するのでは無くして手遊物にするので有る、コッチにダッコアッチにダッコ、小児は睡くっても時間が来ても無據夜更しをする様な事がある、小児の夜更しハ大変に害がある、小供ハ可成早く寝かし朝ハ早く起る癖をつけるが宜しい、夜ハ遊び疲れ従って精神が労れて居ります、されど朝ハ精神も活溌になりて居りますれば益々活溌の気を養はなければなりません、可愛いのか手遊物にするのかハ知れぬが小児より云へバ実に苦しい、若し時間を正しくきめて何時間ハ起き何時間ハ寝ると云ふ様に致したなれバ、第一身体が慣れて母親が手数をも餘程に省ぶく者で有ります、折角可愛い小児が出きても時間に定めが無い時ハ忽ち身体を弱くする事も有り病も起す者で有るから、此の刻限を定めるハ肝心の事と思ひます。

湯を遣はする事に就ても兎角日本人の湯は熱ひ、ソレも宜く度を極めて餘り毎日の度が違は無い様に、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

わき股の間の如き折めゝは爛れ易き者で有るから注意して拭いてやらなければならぬ、格別赤子ハ仕損ひ又ハ汗の如きものがついておると、大人の皮膚より薄き皮なれバ、甚た速かに其の害のある排泄物を再び体中に吸込むものであるから、能だからとて等閑にすれバ大変に身体の害を致します、故に夏などは一日の中に二三度冬ハ毎日位ハ必らず入浴させなければなりません。

（未完）

○育児の手引（三號の續）　岡本鄕吉郎述

第一　小児の温浴

小児の温浴とハ、お児さんを温かなる水中にお入れ申して沐浴を為させまする事を云ふので、盥に湯さ入れてお児さんのお湯をつこうも温浴、又一銭出してお湯ハ入れるのも小児の温浴で、其法沢山ありますが、然し私しが只今此の処で述べようと致しますものは、容器と之れに入れます液体とを要します者で御座ります、其容器と申しますものは木で造りました圓柱形のもので、温浴を為させますお児さんの大きさに応じまして色々で御座りますけれど、大凡一斗か二斗か入れられるものなれバ宜しきにて、高さはお児さんを入れ腰を屈げた処で、チヨウドお児さんの頭ハ容器の縁より三寸下にある位にし、其幅ハドミカコウの側から両手ヲ入れてお児さんを洗へる位ならバ宜しくあります、又其長さハイツソ長か過ぎる方便利で御座ります、それ故一斗か二斗入の酒樽か米桶かを代りに用いても宜しい、次に之に入れます液体ハ温度列氏二十七度か二十八度位にて私共か手を入れて少し暖すぎる位のたゞの温水か、それとも食塩重曹などを入れたる暖かなるお湯を用ゐます。

而してお児さんの温浴を致します法ハ、まづ明るき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

座敷に油紙を敷きまして其上に前に申した器容を置き、之れに沸騰した温水を入れ前に述べました温度になるまで冷水をうめまして、后初めてお児さんを裸体にし静かにソツト其お湯の内に入れます、そうするとお児さんはお泣なさるけれども、決して御心配なくお児さんを肩から頭の處まで温水に沈め、一人の親達ハ左右の手を並行にならべお児さんの頭、背を添ひ腰に至り、手掌にてお児さんの腰を持た支ゑ、手にてハ背を斜に載せかける様に致します、それから今一人の親達ハ前より手拭の布の切片にてお児さんの手より初め、肩胸腹背腰足と順々に火し擦する気味に幾たびも／＼、洗ふこと十五分より二十分に至りますと、お児さんの身体の皮膚の赤くなり頬に汗が流れる様になります、此の時をしまいの度と致して、お児さんを容器より出し申し、ごく軟らかき手拭にて身体をふき、摩り乾ひたのち、「フランネル」か「紀州ネル」の布片長三尺巾七寸位のもので胸や腹や腰足などを指を入れらるゝ位緩く一様に巻き、着物をきせ布團の上に静かに仰向けに臥させ、頭にハ冷水で湿した布をあて小布團をソツトお児さんの上に懸け温かにして置きますれバ、お児さんは善き心持にスヤ／＼とお眠みなされますなり。

次に温浴を致します度數で御座りますが、凡そ産日より二週日間ハ一日二回即ち午前十時午后三時に致し、二週日より后十ヶ月の間ハ毎日午前十時と午后二時と午后八時と都合三回致し、十ヶ月より三十ヶ月の間ハ毎月午后二時頃に一度づゝ致し、それから后ハ五才になるまで隔日に入浴を致ますを宜とす、」

是れからハ温浴を致しますに當り、親達に気をつけてもらはねばならぬ事を述べましよう。

（第一）　寒ひ日例へバ風が吹いたり雪の降りたりする日は宜しくありません。

（第二）浴水ハ暖かすぎても冷たすぎても宜しく有りませんから、可成お児さんを容器に沈め申して居る間ハ、断へず同じ暖かさに在る様お湯をつき込むを簡要と致します。

（第三）お児さんの眼鼻口耳に浴水を入れてはなりません。

（第四）温浴ハ乳を飲んですぐは宜しくなく、サリトテあまりお児さんの腹の減りたるときへ止めるが宜しい。

（第五）お児さんハ静かに入れまして、お湯の内に浴したり沈めたりする事ハ避ねばなりません、また温浴する間ハ二十分と限ります。

以上の五ヶ條ハ甚だ簡要な事で、何卒御注意を願ひたい者でありまず而して此法のお児さんにナゼ利益があるかと申すに、（第一）温浴ハお児さんの皮膚について居りまする老廃物、即ち垢や汗や又黄便なとの不潔物を洗ひ落す、新陳代謝や皮膚呼吸をバ宜しく致すため、（第二）全身の血行を進め心臓の働らきを增す体温の調節を善く致すため、（第三）温りおお児さんのお泣き遊ばす事で呼吸の数を加へ肺臓を強くし、横隔膜の上りたり下りたりするため腹内の諸機を堅固に致す、是の三ヶ條の理由から利益あるので御坐ります。

以上私しが申上げました通り御婦人達其お児さんに温浴を致されたら、お児さんハ精神ハ活潑てなり身体ハ奇麗となり、能くお遊びなされ能く眠みなされ、ムツカリじれる様なことハ申すに及ばず、寒冒下利などにかゝりなさる事もなく身体ハ肥へましとに玉の様なるお児さんとお成り遊す事ハ私しが断然受合申上ます、私しも此法を行ひまして寒冒や腸胃ハ病にかゝり或ハ衰弱貧血のお児さんが手足に括りめの出来る様健かに御成人なされたお方は多くお

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ります、今一々申上げバ煩しきゆへ略します、今日此会に御出での御婦人達よ此法ハ別に金もかゝらず又利ありて害のない御徳用の事で御座りますから、物ハためしで何卒御試みの程を願ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

本ページは未詳のため白ページとしました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

本ページ（裏表紙）は未詳のため白ページとしました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN